

三 愛 だ よ り

第 224 号 2022 年(令和 4 年)12 月 8 日 発行

発行事務局 : 三木市細川町増田 1204 番地

電 話 : 0794-82-3095 (北村) <http://mikisizen.g1.xrea.com>



ヤマラツキョウの果実

報告

「虫のおやど」その後の対応

三愛だより前号(No.223)で、「虫の冬越し探検隊」(2023年3月4日)のために作った「虫のおやど」が壊された事件についてその後の報告を致します。

【各方面への対応】

11/2 小倉会員からの情報を得て、連絡会の者がそれぞれに現場に行って状況を確認しました。原因がイノシシかヒトかはいまだはっきり判らない状況です。ヒトの仕業の可能性も十分考えられるので、11/15(火)に北村・植田で三木警察署に相談に行き、御坂駐在所の巡査に現地確認をしてもらいました。巡回を増やすことと、警察に不審者を通報すると警察官が直ぐに駆けつけてくれることを約束してもらいました。11/19(土)に地元市会議員、三津田区長、消防団関係者の3人の方に旧教育キャンプ場跡の視察を行ってもらい、三津田地区に注意喚起の回覧をお願いしました。11/26(土)には教育センター長に被害のことを伝え、警察や地元地区の協力が得られたことを報告、県へ看板設置や枯木の伐採を打診してもらうことを依頼しました。

【「虫の冬越し探検隊」への対応】

被害への対応とは別に、「虫の冬越し探検隊」の実施に向けて三役で検討した結果、次のような対策を立て、12/1(木)の活動推進連絡会で了承を得ました。

- ①再度壊される危険性もあるが、昨年度参加者全員で今年度のために作った「虫のおやど」なので、昨年度の参加者に呼び掛けて復旧作業を出来るだけ早く行う(予定:12/18(日)の午後2時より)。その時、カブトムシの幼虫がいるか確認しておく。
- ②3/4(土)の「虫の冬越し探検隊」は予定通り実施し、カブトムシの幼虫がいる場合は「虫のおやど」を利用し、いない場合は会員に呼び掛けて外から出来るだけ確保する努力をする。
- ③来年以降についても、引き続きこの場所を利用して行く。同様の被害をもたらさないように、行政(県・市)および地元の協力を得ながらこの場所を監視して行く。

【おねがい!】

子どもたちが楽しみにしている「虫の冬越し探検隊」を成功に終わらせるためにも、**12月18日(日)の午後2時から**の復旧作業にご協力ください。

また、皆さんの周辺で、カブトムシの幼虫が生息していましたら、是非ご一報をください。復旧作業時に現場を見て、幼虫数が不足しておれば提供のお願いをさせていただきます。(文責:横山)



2022/3/5 参加者全員で「虫のおやど」を作る(奥側のもの)



2022/11/5 無残に壊された奥側の「虫のおやど」

2022 年 11 月中旬～12 月上旬の事業報告

- 11 月 10 日 (木) 外来生物セミナー「生物多様性と外来種講習会 in 丹波」13:30～17:00
四季の森生涯学習センター (丹波篠山市)、参加: 北村
- 11 月 14 日 (月) 市との情報交換事前打ち合わせ 15:00～市役所にて 三役
- 11 月 15 日 (火) 三木警察、御坂駐在所、旧教育キャンプ場跡現地確認 立会: 北村、植田
- 11 月 19 日 (土) ボランタリーフェスタ展示準備 13:00～21:00 横山
ユープこうべ環境基金オンライン市民団体交流会 13:00～14:30 北村
三津田区長、地元住人、大西市議員と旧教育キャンプ場跡現地確認 15:30～北村
- 11 月 20 日 (日) ボランタリーフェスタ 会員 8 名参加
- 11 月 23 日 (水) 情報交換会打ち合わせ 4:30～ 5 名
- 11 月 24 日 (木) 三役会議
- 11 月 25 日 (金) 市との情報交換会打合せ 3:00～北村
- 11 月 29 日 (火) 三木市との情報交換会教育センター15:00～16:30 三愛研 6 名、市役所 10 課 11 名
・丸岡から、三木市の希少植物の現状と課題(補足) ・植田から、ため池調査中心に情報提供
・3 班に分かれてグループ討議
- 12 月 1 日 (木) 活動推進連絡会
- 12 月 4 日 (日) ふるさと公園公開観察会 (ササユリ復活作戦) 10:00～ (会員集合 9:00)
参加者数: 15 名 (会員 13 名、一般 2 名)



下部に詳細掲載

報告

11/29 三木市との情報交換会

三木市に生育する希少種の保全について、三木市との情報交換会を 11 月 29 日(火)、15:00～16:30、三木市教育センターで実施しました。三愛研からは、三役の他に丸岡、小倉、戸田の計 6 名が参加、三木市側は 10 課 11 名が参加されました。

平成 28 年から毎年行っている情報交換会も定着してきましたが、いつも三愛研側の情報提供と市への要望を行うに終わってしまっていました。この度は三木市の自然環境について、市の各課の方々の考えや意見を聞きたいという願いや各課の横の連携を強化するために、会の進め方について生活環境課の担当者と二度ほど打ち合わせを行ってきました。その結果、最初の 30 分程度で三愛研の情報提供を行った後、班に分かれてグループ討議の形式をとってみるようになりました。

会は北村理事長の挨拶の後、最初に三愛研から丸岡会員の三木市の貴重種について (約 10 分)、続いて植田会員の三木市のため池調査について(約 25 分)それぞれ情報提供を行いました。その後、3 班に分かれてグループ討議を行い、三愛研側も 2 人ずつ各グループに入って討議に参加しました。討議内容は、第三次三木市環境総合計画において「生物多様性の保全」「希少種の保護」等の取組みの一つとして「外来種の駆除」をテーマに、①外来種がもたらす影響、②私(市)有地に存在する外来種に対しての対応、③外来種対策についての体制整備 の 3 つの観点から話し合いが行われました。

各班とも時間が足りないほど活発な話し合いになりました。時間の関係上、全体での発表やまとめは行わず後日に生活環境課の方で各班の意見を集約することで終了しました。結果が得られた訳ではありませんが、一歩前進した会合になりました。(文責: 横山)



種(たね)～命のカプセル～

ふるさと公園だより

3年続けての暖秋だった。昨年は11月28日に初霜、初氷だったが今年には更に暖かく、12月2日にやっと氷が張った。それでも、11月中旬を過ぎると、色づいていた落葉樹がはらはらと葉を落とし始めた。ふるさと公園の名物とも言えるヤマラッキョウの花が終わると、生き物たちはそれぞれに冬支度を始める。



2年前の12月号は「綿毛」特集だった。風に乗って飛んでいく綿毛の根元には種。では、他の種たちはどうなのだろう？こぼれ落ちる、はじけ飛ぶ、翼がある種は少し遠くまで運ばれそうだななどと考えながら、枯れた果実を指先で裂いて手のひらに落としてみる。小さい！驚くほど小さく肉眼ではとても確認できない。画像を拡大してみると、リンドウはもとよりキキョウにも少し翼があった(°Д°)格子模様のあるもの、真ん中に溝があるもの、角ばっているもの……すべてが違う。400,000種(しゅ)とも言われる植物の種(たね)全てが違うのだと、当たり前なのに今更ながら驚く。このゴマ粒よりも小さい種たちが、来たるべき時期を迎えると、根を伸ばし、芽を出し、茎を伸ばし、葉を増やし、花を咲かせる。まさしく、種は命のカプセルだ！

はじけ飛ぶタネたち



ヒキヨモギ



センブリ



タヌキマメ



オトギリソウ



カワラナデショ



オモダカ

水場が凍る冬も理事長によるザリガニの駆除は続く。ザリガニが根絶に近づいたかに思われた守池2号でも、また入り始めている。冬場の産卵に向けて、駐車場や芋畑の溝のもんどりにニホンアカガエルやセトウチサンショウウオが入り始めた。一方、種たちは眠りの季節に入る。(文&写真：塩田)



12/5、駐車場横の溝でモンドリに入っていたセトウチサンショウウオとニホンアカガエル
(写真提供：北村)

報告

12/4 ふるさと公園公開観察会とササユリ復活作戦



曇り一時雨の天気予報は幸いにもはずれてくれた。会員は9時に集合。観察会に先立って園路の草刈り、セイタカアワダチソウの引き抜き、畑の石拾いを行った。園内は初冬、枯葉が舞い落ちる季節を迎えリンドウやヤマラッキョウの花がわずかにその青色をとどめている。

園内観察後に行ったササユリ復活作戦は、種子をバーミキュライトと混ぜて湿らせたものを暗所で寝かせて翌年蒔く方法を試みた。来年、米粒に満たない小さな球根がたくさん出来ていることを期待している。

会員13名、一般2名の計15名参加。

(文責：北村)

三愛研 2022年12月中旬～2023年1月 事業活動予定表

日	曜	12月 行事 他	日	曜	1月 行事 他	
16	金		8	日		
17	土		9	月		
18	日	ふるさと公園全面草刈り 9時集合 「虫のお宿」復旧作業 14:00 現地集合	10	火		
19	月	再掲してお願い!	11	水		
20	火	<p>会員も年々高齢化していき、草刈り作業も年々辛くなって来ています。馬力が減退した分、数でカバーしたいと思います。草刈り機使うだけではなく、フェンス際を鎌で刈ったり、草集めなどの作業があります。一般市民の参加も大歓迎ですので、お近くの人を誘ってのご参加も大歓迎です。作業用具は用意しますので、作業が出来る服装をして手ぶらで参加してください。</p> 	12	木		
21	水		13	金		
22	木		14	土		
23	金		15	日		
24	土		16	月		
25	日		17	火		
26	月		18	水		
27	火		19	木		
28	水		20	金		
29	木		(三役会議)	21	土	
30	金		22	日		
31	土		23	月		
1月		 <p>よいお年をお迎えください</p>	24	火		
1	日		25	水		
2	月		26	木	(三役会議)	
3	火		27	金		
4	水		28	土		
5	木		活動推進連絡会 19:00～ 教育センター	29	日	ふるさと公園畦焼き&増田地区ヤブレガサモドキ自生地ため池土手の草刈り作業 9時集合 (午後) 擬木でメダカの逃げ場づくり
6	金			30	月	
7	土			31	火	

編集委員より再度のお願い!

機関誌「おもだか」の原稿をお願いします。テーマは身近な出来事や皆様の研究の成果など、日ごろの思いをお寄せください。

締切：2023年3月5日(日)

原稿送り先：池田 e-mail

8728hiroko@gmail.com

三愛研 1年間の活動

(2022/11/20 ボランタリーフェスタ)



2022年(令和4年)12月7日 水曜日

12/7 神戸新聞 掲載

草花や昆虫の写真

三木・増田ふるさと公園の魅力PR
カレンダーで貴重種紹介

増田ふるさと公園(三木市細川町増田)の希少生物を紹介する2023年の卓上カレンダーが完成した。市内のNPO法人が手がける、季節の草花や昆虫の写真が並ぶ。シン目で切り取り、写真部分がポストカードにもなり、メンバーは「自然を大事にする思いを広げ、貴重種を守っていきたい」とアピールする。NPO法人三木自然愛好

ど、園内に居る生き物や四季の風景の写真を使う。裏面には、情報が浮かぶような説明文や同僚ホームページのQRコードを掲載。はがきとして使え、挿入吉副理事長(68)は「自然が好きで友達に送ることで、より公園を知ってもらえるのでは」と思いを込める。毎年恒例の「ふさと野のこよみ」も発行し、今年には園内のトンボを題材にした。異絶滅危惧種ランクスのペイントトンボや、光沢のある青い羽が特徴のチヨウトンボなど、珍しい写真が並ぶ。北村理事(70)は「公園は時節を知らず訪れると新しい発見がある」と話す。卓上カレンダーは1冊500円で150冊限定。野のこよみは1枚200円。市民活動センター(☎0794・83・8400)や市観光協会(☎0794・83・8400)で販売している。(小野明海)



※ カレンダー「ふるさと野のこよみ」はひょうご環境保全連絡会からの助成を受けています